



コデマリ

建設情報誌

C-net通信

Construction

Vol. 485

さが

『C-net通信』で

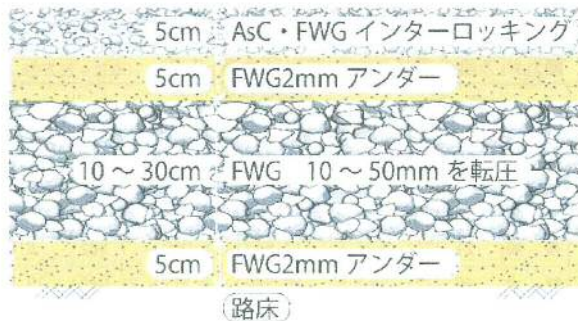
2020年4月22日
(毎週水曜日発行)

<http://www.nsci.co.jp>

発行所：(株) NSC 佐賀市日の出1丁目16-19
TEL 0952・97・9643 FAX 0952・97・9647

「FWG透保水性舗装工法」 日本発明振興協会の発明大賞

一般的な使用例



公益財団法人日本発明振興協会はこのほど、第45回発明大賞表彰を発表した。発明大賞（本賞）は「柔軟触覚センサ」タッチエンス(株)（永野顕法）。佐賀県からは、日本建設技術(株)（本社・唐津市、原裕社長）の「発泡廃ガラスを用いた道路舗装構造」が考案功労賞に選ばれた。

1975年から毎年、独創性に富む発明によって優秀な技術・製品を生み出した中堅・中小企業及び個人を表彰し支援している。今回は発明大賞4件、発明功労賞7件、考案功労賞8件、発明奨励賞3件の計22件の技術・製品が選ばれた。

日本建設技術(株)の受賞技術は「FWG透保水性舗装工法」。

日本建設技術が考案功労賞

廃ガラスを再資源化し、吸水性の発泡廃ガラスを路盤材として用いる。降雨や打ち水等を舗装内部と路盤内に保水し、晴天時に毛細管現象により路面まで上昇し蒸発することで、気化熱により路面及び周辺地域の温度上昇を抑制する舗装工法。

夏季に都市部で発生するヒートアイランド現象は、舗装された地表面が直射日光により加熱され、周辺気温が高くなるのが一因と考えられている。そこで、都市部に約20%の大面积を持つ歩道舗装部や、観光地・高速道路等の大駐車場にFWG透保水性舗装工法を活用することで、ヒートアイランド現象の緩和策として期待できる。同工法を施工した場所の温度を測定すると、透保水性インターロッキングは最大約13℃、透保水性Asの場合は最大約17℃の温度低下があり、歩行者や周辺に対して快適な環境にすることができるという。

施工手順は、保水層として粒状の発泡廃ガラスを路盤に10～30cm敷設し、表層部には透水性AsやFWGインターロッキングを用いる。すでに民間会社の休憩所や駐車場、歩道部の舗装などの公共工事で採用されている。また、発泡廃ガラスが保水するため、豪雨時の都市型洪水を緩和することもできるという。 【4月17日HP掲載】